

## 「神話博しまね」開催概要発表記者会見 知事メッセージ

H23.7.27(水)

ご承知のように、来年の「古事記編さん 1300 年」と再来年の「出雲大社の大遷宮」に合わせまして、県は「神々の国しまね」プロジェクトを進めております。

本日は、この「神々の国しまね」プロジェクトのシンボリック事業となります神話の博覧会、「神話博しまね」の企画の概要が、大体まとまりましたので、これから発表したいと思っております。

まず、会期は、来年の 7 月 21 日(来年の夏休みの始まり)から 11 月 11 日(神在月に全国から神々が出雲に集う前)までの 114 日、夏休みから秋の行楽シーズンにかけて行おうというものであります。

主会場は、出雲大社と古代出雲歴史博物館の周辺の地域であります。

「日本という国がどのようにして出来たのか」など、「日本のはじまりの物語」が古事記などで語られてきました。

これが「神話」だと言ってよいかと思っておりますが、その「神話」の持つ魅力、おもしろさ、あるいは奥深さを、たて 3 m、よこ 15 m の大画面の映像や県内各地の神楽上演や古代遺跡の展示などにより、皆さんによく知っていただこうと思っております。

また、県内各地には出雲大社周辺だけでなく、たとえば おろち退治神話の舞台となった場所、そのゆかりの神社、さらには荒神谷や加茂岩倉などの古代の遺跡など古き世界が沢山残っています。

主会場の「神話博しまね」は、県内外の方々をそうした県内各地の古代世界にいざなう入口(エントランス)のような役割を演ずるものであります。

主会場で来られた方の観光相談や案内など、観光ガイド機能を充実し、博覧会開催期間中は、バスツアーやタクシーの利用といった、いわゆる二次交通を準備し、主会場から直接、古代出雲の遺跡や神話ゆかりの地などを巡り歩くことが出来るように致します。

そうして、観光客の方々などが訪れる各地で、たとえば縁結びの地の「松江や出雲」、オロチ退治の舞台の「雲南」、柿本人麻呂と石見神楽の「石見」、ジオパークの「隠岐」においても、それぞれ地域が主体となって、各種イベントやガイドツアーなどの催しを行います。

その意味で、「神話博しまね」は、プロジェクトの理念であります「県民参加による地域の魅力づくりとおもてなし」を推進するセンターのようなものであります。

「神話博しまね」の開催まであと 1 年、市町村や民間団体の方々と一緒になって、また県民のみなさんの幅広い参加を得ながら、準備を進めていく考えであります。